

# ナースアクション全国交流集会 part 2 // 概要報告 //

日時：2023年9月5日（火）17時半～18時45分 オンライン

参加：209人（前回99人）

進行：全日本民医連 坂田 薫 理事

## 1. 開会挨拶 全日本民医連

川上 和美 副会長

短期間で11万の個人署名を集め、全国一斉行動や白衣の国会行動、民医連外から多数寄せられる団体署名など、この間現場が多忙な中でもナースアクションは大きな盛り上がりをつくり与野党国会議員43人の超党派の賛同も勝ち取ってきました。先日開催された第3回評議員会でも多数発言がされ、わたしたちのナースアクションが、医師増員や社会保障拡充の運動にも繋がっていていると感じます。声を上げ行動していく中でこそわたしたちは社会の主人公として成長していきます。命と暮らしを守る専門職として、横へ横へと繋がっていきましょう。本集会でエネルギーを補給し秋からの取り組みの意思統一を図って、更に運動を前進させていきたいと思っております。

## 2. 国会情勢報告 日本共産党

倉林 明子 参議院議員

医療現場でのクラスターの話などを聴いて、第9波に入っているなど実感します。まるでコロナが終わったかのような医療機関への補助打ち切り、患者さんへの負担増など、この国の政治は一体何を教訓にしているのかと怒りを覚えます。

この間看護を巡って国会が確実に動いてきたと思います。わたしは7年間厚生労働委員を務めていますが、看護の事を取り上げるのは私だけという状況がつづいていました。しかしコロナ禍ということもあって、看護やケア労働に関心が集まり、もちろんバッシングもありましたが、このままではいけないという世論の高まりが後押しして処遇改善につながった。このまま放置しては看護がとんでもないことになる、医療費抑制政策の中でもケア労働者の賃上げが必要だと政府も認めざるを得なくなって、最初は慰労金という形でしか実現しなかった。現場の声と国民世論を無視できなかつたわけです。皆さんが集めた11万の署名と、そして43人にまで与野党の会派を越えて拡がった賛同議員というのは、厚生労働委員会にかかる請願の中でも数少ない事なのです。全ての看護師の処遇改善が必要だという事は、全会派が賛同できるころまで進んだという事だと思っております。自民党の議員運営委員会理事でもあ

る看護師出身の石田昌宏議員も「僕は紹介議員になるよ」と言ってくれたわけです。もう一歩で請願採択出来るころまで見えてきたのです。30年前に看護婦確保法を制定させたナース・ウェーブに続くような動きをみなさんがつくりつつある。これが今の到達点だと思います。

この到達に立って現状を更に切り拓くためには、政治や医療を巡る動きをしっかりとつかんで、多くの国民と一緒に、国民と一体になって運動を進めていく必要があります。既に巻き返しが始まっています。医療費抑制政策を更にバージョンアップさせて、トリプル改訂の中で、急性期の看護体制を地域包括ケア病棟の看護体制に評価替えしようとしています。急性期の病床を減らす事で医療費を抑制しようと、コロナ禍でも1万床減らしましたが、更なるベッド削減を画策しているのです。併せて医師の働き方改革の圧力としわ寄せを看護師へのタスクシフトですすめようとしています。看護師を増やさないと医師の業務をシフトしたら看護現場は更に業務過重になるだけです。医師の働き方も時間合わせの様な、つじつま合わせの様な形ですめられ、医師の業務負荷も変わらない。医療全体で医師も介護も含めて、やはり増員を正面に据えて、これからは取り組んでいく必要があります。

だいたい何でここまで医療・社会保障削減をすすめるのかということです。岸田政権が先の国会でしたことは、憲法を飛び越えて戦争準備に入ったという事だと思っております。専守防衛をかなぐり捨てて、「敵国」に攻め入る事が可能な国に戦後はじめて踏み込んだ。そのための予算として5年間で43兆円もの軍事費を決めてしまった。故に、岸田政権は異次元の少子化対策を謳いながらも、そのための3.5兆円の予算すら組めないという事態です。軍事費確保が大前提となっている中で、だからこそ次の報酬改定ではアッと驚くくらい大幅な引き上げを勝ち取る必要があるのだと思っております。軍事費最優先の流れが、社会保障削減に直結しているわけですから、軍事費削って医療福祉にまわせという世論と運動と一体になって処遇改善も打ち出していく事が成否を決すると言えます。

内閣改造が9月中旬になされると言われ、10月の早期解散も囁かれています。保険証廃止の問題や不祥事などで国会を開けば追及されるので、その前に解散と

いう事です。いずれにしろ総選挙は行われますが、その時に考えて欲しいのは国民は誰も軍事費を増やせとは要求していないという事です。誰が要求したかは国会閉会後にバイデン大統領が「わたしが3回岸田さんを説得したから」と告白しました。アメリカ言いなりに戦争する国になっても良いのかという事です。マイナンバーカードの紙保険証廃止の2024年秋の期限も財界の要求です。マイナンバーカードに個人の資産を紐づけして、社会保障費の出と入りを管理し、個人負担を増やして社会保障費を徹底して削減して大企業の税負担を更に減らそうとしているわけです。

国民の切実な要求とは無関係に、アメリカや財界言いなりの政治が行われてきたことで、コロナに脆い、人のいのちを守ることにあまりにも脆弱な日本にされてきたのだという声をあげていくことだと思います。国民との共同が広がる条件はかつてなくあると思います。共に頑張りましょう。

### 3. 方針提起 ナース★アクション2023年秋以降の取り組みについて

坂田理事

\*別紙 2023年9月1日付全民医発(45)第ア-656号参照

### 4. 各地の活動報告

#### ①北海道・東北→宮城・泉病院／看護部長 石津 ひろえ さん

今は団体署名の呼びかけをしています。病院群はもちろん、診療所、ケアステ、地域包括支援センター等から署名が届いています。組合との協議会の中でも各分会や医労連へ協力の呼びかけをしてくれるといううれしい声をいただきましたし、一度は断られました。が、めげずに「看護協会へも乗り込むか」という話もしているところです。看護師だけに限らず医療従事者の処遇改善の抜本的な改善を引き続き求めていきたいと思っています。

#### ②北関東甲信越→長野・東信医療生活協同組合／統括師長 中澤 美紀 さん

県内約2千カ所へ郵送し202の事業所から署名が返送され、7,352筆集まりました。うち36%にあたる2,537筆が外からの署名でした。署名の郵送に関して、宛先が病院代表者名であったことから、看護管理者に届かなかったケースもあり、今後は看護管理者宛にしていきたいと考えています。街頭署名では「看護師だけこういうことがあるって知りませんでした」などの声がかかれ、外に出て伝えていくことは大事だと感じました。看護協会会長から、声を上げることは大事ですねとお話があり、あずみの里裁判をきっかけとして生まれた連帯を今度は処遇改善の取り組みにつなげ

ていきたいと思っています。

#### ③関東→千葉健生病院／看護部長 齋藤 美希 さん

懇談の席で、看護協会会長から何十年も看護職俸給表は改善されてこなかったが、昨年11月に改正された事を契機に、もっと訴えていくことが必要である事。民医連の調査データをお渡ししたところ、データがないと訴えとして届かないので、実態データは重要だとお話がありました。また、県内で看護職初任給が14万円と格差があることも確認しました。本日「社会保障の充実を求める自治体要請キャラバン」に参加し、県立の看護職養成校の新設と保健師等修学資金貸付額の増額(県は月額16,000~18,000円で、都は25,000~100,000円)について要請しました。20年前になりますが、私は当時月謝数千円という学費でしたが、現在看護大学を4年間卒業するまでに約700万円の学費がかかります。都心まで近い千葉県で育成した看護職が、給与の高い都内に就職する例もあります。看護師の確保と定着は地域の課題であり、自治体の課題であることを伝えました。

#### ④東海北陸→石川・城北病院／看護部長 藤牧 和恵 さん(全日本民医連理事)

団体署名を県内約1,800カ所に県連事務局が発送。民医連外事業所から95筆集まり、特に、訪問看護ステーションからは36と反響がありました。この署名と請願書を持って共産党県議と懇談し、10月に県との懇談と記者会見を予定。今月中に団体署名を返信してくれた事業所へ訪問して現場の意見を聞き、今後の取り組みへの協力をお願いする予定です。事業所訪問や県との懇談には現場の看護師にも参加してもらい、直接声を届けていきたいと思っていますし、運動を大きく広げていくために、民医連外の事業所とも力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。また医労連ともケア労働者の処遇改善を求めて協力しようと相談しています。

#### ⑤近畿→京都民医連あすかい病院／看護部長 征矢 陽子 さん

看護協会との懇談を行った内容の報告です。全日本民医連の声明、看護職員処遇改善評価料のアンケート調査報告(京都の69事業所の結果)、京都民医連中央病院の「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いた患者分析のアルゴリズムについて報告を行い、意見交換を行いました。処遇改善の全看護職への拡大については、認識一致が図れ、交渉で厚労省は「看護職の賃金は他産業よりも高い」との認識であったことも伝え、看護職の確保、定着、処遇改善は並行して検討する必要があることを確認しました。会長は以前、京都民医連の看護・介護学会のスーパーバイザーとして関わっていただいた関係もあり、民医連の看護についても理解を示されています。

#### ⑥中国四国→愛媛生協病院／総看護師長 森実 美佐

さん

民医連外の病院へ訴える活動は、県連看護委員会としては初めてのとりくみで、ドキドキしながら送りました。公的病院も含めて6つの病院、1つの訪問看護ST、県看護協会から合計500筆を越える署名を返送していただきました。皆さんの熱い思いがこもった分厚い署名に、キャーキャー歓声があがったくらいです。トリプル改定の年に、このナースアクションが、一定の圧力をもって政策に反映されることを期待します。全国の看護を生業にする多くの人々が、日々患者に向き合い良い看護を提供しようと努めている人々が、声をひとつにして行動することで、結果的に患者さんの療養環境が良くなる（看護師の増員などにより）よう力を合わせたいと思います。ともに頑張りましょう！

⑦九沖→長崎・健友会／看護部長 山本 孝子 さん

看護師総定数83名の小さな県連ですが、署名2,000筆を目標に取り組みました。全職員へ「一人5筆の署名」を訴え、また、病棟や外来、友の会新聞の折り込み、長崎と佐世保の友の会総会、子供食堂へと出向き、訴えました。開業医訪問12件、研修医の施設研修での訪問4件など、医局の協力も得て取り組むことができました。県下施設1,189箇所へ郵送し、返信は33事業所だけでしたが、少しずつ理解が広がればと思っています。メーデーでは、労働組合の協力で多数の署名を集めることができました。診療所では、離島の師長が「診療所は看護職員処遇改善評価料の対象ではないけれど、この1歩がなければ何も始まらない」と奮闘したことをきっかけに、ほかの診療所師長も訪問患者宅を回るなど頑張りを見せてくれました。結果、2,014筆と目標を達成することができました。

⑧看護学校→北海道・勤医協札幌看護専門学校／事務長 田沢 裕一 さん

本校の学費は56万円で国公立の学校より低く、民間

の学校としては最も安い為、経済的に厳しい家庭環境で、でも看護師になりたいという生徒が入学してきます。本校の全学生数140名のうち89名、62%が何らかの奨学金を受けており、その半数が2種類以上の奨学金を受けています。1種類平均は5万円ですから3年間で180万円、2種類なら360万円が卒業した瞬間に借金となり、15年、20年かけて返済するのです。未来を担う若者が社会に出たとたん重い負担を課せられるはおかしい。まして国民の命を守る看護職養成は本来、国が責任を持つべきではないのかと思います。高等教育の無償化を求める署名に取り組む意義は大きいです。

## 5. 閉会挨拶 全日本民医連

河本 真理 理事

熱い思いが伝わる集まりとなりました。岸田政権が戦争準備に入ったという倉林明子参議院議員のご報告には鳥肌が立つほど恐ろしい思いがしましたし、軍事費優先では社会保障が削られるばかりという事ですから今こそ立ち上がらないと、とりわけのちと生活を守る看護師が立ち上がらなければ日本はとんでもない国になってしまうと、奮い立たせられました。各地からの取り組みの報告からはたくさんの方のアイデアをいただきましたし、まだやれることはたくさんあるし届いていない所もたくさんあることが分かりました。国民・市民にもっと広く知らせていく事が、これからの三ヶ月だと思います。12月末まで30万筆目指して元気に頑張りましょう。来年の1月30日(看護代表者会議)には、二回目の白衣の国会行動となるかも知れません。ドクターズ・デモンストレーションもスタートする様ですので、一緒に力を合わせて、サイレント・ナースにならずに声を上げていきましょう。

以上